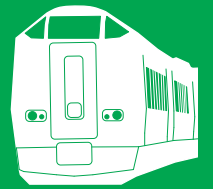


公共交通を

守っていくために



宗谷本線の歴史

旭川～名寄間は、天塩線として建設され、旭川から名寄に向かつて段階的に開業しながら1903年（明治36年）に全線が開業しました。

名寄～稚内間は、天塩線、天塩南線、天塩北線として建設され、1926年（大正15年）に稚内までの全線が開業しました。

その後、路線の編入・分離・改称を行い、1930年（昭和5年）に現在の宗谷本線となりました。

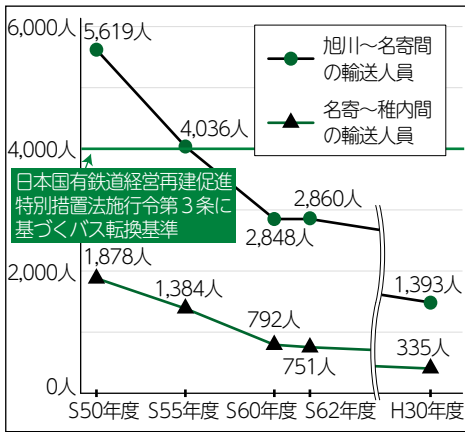
鉄道の利用状況

旭川～名寄間の輸送人員では、昭和50年と平成30年の比較で、約4分の1に減少し、名寄～稚内間の輸送人員で見ると、約5分の1に減少しております。原因としては、この区間の人口減少や、自動車の普及、高規格道路の整備などにより、移動手段が自動車にシフトしていると考えられます。

しかし、現在の宗谷本線は旭川～名寄間が高速化されており、特急が運行されています。旭川まで1時間を切り、特急「宗谷」号であれば、札幌まで2時間30分を切る速さで移動することができ、都市間の貴重な移動手段となっています。



開業当時の名寄駅の様子



表：宗谷本線輸送人員（1日1kmあたりの平均人数）

公共交通を守っていくために

公共交通を担うものとして、バスと鉄道があげられます。どちらも民間企業が運営しており、持続して運営を続けるためには一定程度の利用者が必要なのです。

私たちの移動手段の選択肢が狭くならないよう、通勤や出張、レジャーで利用するなど上手に利用し、市民自らの手で創り育て上げる公共交通としていく必要があります。



徳田線バス



JR名寄駅

バス・鉄道の特色

バスの特色としては、短距離移動や需要に合わせた柔軟なダイヤ編成により、利用の多い病院や商店街の前に停留所を設置することが可能です。

一方、鉄道の特色は、何と云っても大量輸送・高速長距離移動が可能なこと。通勤・通学時間帯や特急列車の運行は鉄道の特色を十分に発揮しているといえます。

とりわけ鉄道は「路線が地図に掲載されている」点において他の公共

交通と大きく異なっており、地図を見ながら経路や時刻を検索できるという特色があります。

みんなで利用してみよう

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、不要不急の外出を自粛する日々が続き、新たな生活様式が推奨されています。

公共交通は単に移動するだけでなく「移動を楽しむ」という素晴らしい側面を持ち合わせています。特筆すべき点としては、通話や喫煙はできないものの、自動車運転中は禁止されている携帯電話（スマートフォン）の利用や飲酒などができるといったことです。

新型コロナウイルス感染症が終息した日には、バスや鉄道を乗り継いで遠くの街まで足をのばしてみたいかがでしょう。



公共交通利用促進キャラクターのりたろう

問い合わせ

総合政策課総合政策係
企画課企画調整係

（両係とも名寄庁舎3階）

☎01654③2111

（内線3306、3312）